



2006 年 1 月 31 日

各 位

会 社 名 アステラス製薬株式会社
代 表 者 代表取締役社長 竹中 登一
コード番号 4503
(URL <http://www.astellas.com/jp>)
東証・大証・名証 (各第一部)、札幌
決 算 期 3月
問 合 せ 先 広報部長 田中 昭弘
Tel : (03) 3244-3201

新薬開発状況の進展について

アステラス製薬（社長：竹中 登一）の主なパイプラインの進展についてご連絡申し上げます。

欧州で免疫抑制剤「FK506徐放性製剤」承認申請

当社の欧州子会社は、免疫抑制剤「FK506徐放性製剤」（一般名：タクロリムス）を、臓器移植における拒絶反応抑制を目標適応症として欧州医薬品審査庁(EMA)に承認申請いたしました。

この度承認申請した「FK506徐放性製剤」は、「プログラフ」の1日1回投与の徐放性製剤です。本剤は、1日2回の既存製剤よりも服用回数を減少させることで、患者さんのコンプライアンスの向上が図れることから、長期にわたる移植臓器の更なる保護効果が期待できます。また、最高血中濃度を低くすることで既存製剤と同等以上の安全性が期待できるとともに、血中濃度を参考にして投与量を調節することが可能です。

過敏性腸症候群治療薬「YM060」国内で承認申請

当社は、過敏性腸症候群（以下、「IBS」）治療薬「YM060」（一般名：ラモセトロン）を、国内において下痢型過敏性腸症候群を目標適応症として承認申請をいたしました。

IBSとは、腹痛を中心とする腹部症状と便通異常を主訴とする疾患であり、下痢型、便秘型、交替型の3つのタイプに分類されます。この度承認申請した「YM060」は、5HT₃受容体（セロトニン）拮抗作用にもとづく大腸機能の改善を作用機序とし、下痢症状を有するIBSを目標適応症にしており、5HT₃受容体拮抗薬としては国内初の薬剤となります。

なお、欧州においても臨床試験を行っており現在第Ⅱ相臨床試験の段階にあります。

なお、上記以外の新薬開発状況につきましては、2006年1月31日発表の第3四半期決算発表の補足資料として公表しております。

以 上